

巻頭言

IT革命雑感



(財)日本植物調節剤研究協会 評議員
(社)日本くん蒸技術協会 理事・事務局長

秋山博志

今パソコンに向かってこの原稿を入力している。手書きで文書を作成しなくなってから久しい。また、情報はほとんどインターネットから入手し、辞書などほとんど使用しなくなった。このように便利になった背景を振り返ってみた。手書きからの脱却は、今から25年ほど前に個人向けに発売された、文書を作成し、印刷し、保存でき、修正も簡単にできる機能を持つ日本語パーソナルワープロに出会ってからである。個人用ワープロの出現は、手書きで起案文書や出張報告書等を作成していた私にとっては革命的な新兵器であった。それ以来、公私を問わずほとんどすべての文書は筆記具ではなく、ワープロにより作成するようになった。ワープロはその後毎年のように機能が向上した新機種が発売され、我が国で爆発的に普及した。しかし、1990年代から次第にパソコンに取って代われ、繁栄を謳歌したワープロは、2000年頃には20余年の短い寿命が尽きた。これはまさに生物の種の出現と絶滅に例えられよう。ワープロを駆逐したパソコンとの出会いは、1995年頃、当時勤務していた職場でパソコンが全職員に貸与され、起案、業務連絡等はすべてネットワークで処理するよう強制された時からである。使いやすいワープロに慣れていた中年の私にとって、難解な用語にあふれた操作マニュアルはなかなか理解できず、パソコン操作の習得には大変な努力を要した。

コンピューター関連技術が開発され、一般の家庭にパソコンが普及してきたのは最近20年間のことであり、インターネットへの常時接続が可能になり、ケータイでインターネット・メールができるようになったのもごく最近のことである。このようなことを可能にした情報技術革新は、2000年の流行語大賞にもなった「IT（情

報技術）革命」とも言われ、その翌年に施行された「高度情報通信ネットワーク社会形成基本法」（いわゆるIT基本法）に基づいて国家により推進されている。このIT革命に遭遇した我々が生きている社会、経済の仕組みは劇的に変わってきている。また、個人のライフスタイルも大きな影響を受けている。これはまさに「農業革命」、「産業革命」に匹敵するものと言えよう。しかしながら、私たちはIT革命の大きな流れの中に身を置いているために、今後どのようになってゆくのかが見通せない。技術革新の中で次から次へと現れる新しいものを押しつけられているように思われる。その過程で多くのものが消滅している。

ITについては現在もソフト、ハード共にものすごい勢いで進化し続けており、それらの仕組みは我々にはブラックボックスである。しかし、ソフトの進歩と共にパソコンを利用した文書作成、データベースの構築、インターネット・メールは誰でも簡単にできるようになった。今後ブロードバンド、第3世代ケータイなどの普及で我々の生活はさらに大きく変貌するであろう。

私たちが係わっている「農業」に関する情報の発信についても、今やインターネットは有力なツールになってきている。試しに、「農業」というキーワードで検索してみたところ、驚くことに数百万件ヒットした。官庁、農業メーカー、農業関連団体等から農業の安全性・安全使用等に関する情報を提供している一方で、内外の反農業グループも農業の危険性について多くの情報を発信している。このように膨大な情報に接することのできる一般の人々は一体どの情報を信頼してよいか戸惑うであろう。高度情報化時代に合わせた農業の安全性に関する情報の発信方法について工夫する必要がある。